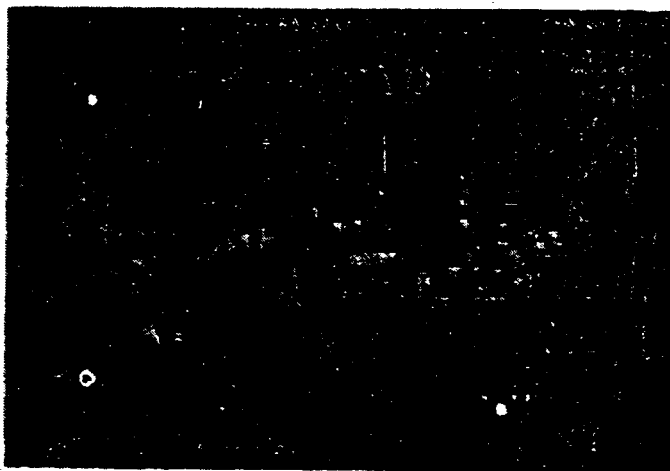


## 土 木 座 談 會 (其の二)



康徳7年3月1日

於新京中銀クラブ

### 出 席 者

坂田會長	司 會 者(町田氏)	水 電(本間氏)	牡 丹 江(鈴木氏)
	黒 河(吉村氏)	奉 天 省(津田氏)	安 東 省(黒田氏)
	錦 州 省(石田氏)	鑛工技術院(浮州氏)	大 東 港(近藤氏)
	新 京 市(重住氏)	土 地 開 發(嶺川氏)	龍 江 省(北村氏)
	彰 武(石塚氏)	交 通 部(山田氏)	

津田科長 私は安東と通化の縦断道路に就て御話します。私が現場へ初めてやられたと云ふのが實は安東だつたのです、それで行つて取懸つたのですが行つた翌日早速匪賊の襲撃を食ひまして、部下を五名許り殺したのでこれは大變なことになつた、東邊道縦貫國道をやるまでには相當の犠牲者を出すと思ひました、現在立派に通れるやうになつて非常に嬉しいと思つて居りますが當時を追想して見ますのに、最初安東寛甸間で先づ大樓房で兒玉君の現場詰所が襲撃され、請負人がマギ嶺で遭難し岸君が人質にされ、驛河でも一、二回寛甸バスが襲撃された。驛河を出て次に南大嶺では安東市公署に居られる

荒木技佐が當時夜間襲撃を食つた。車道嶺では警備員五名が殉職した。私の記憶してゐるだけで平均五キロ位に遭難地點があつた様に思ひます。それをずつと拾つて考へると、安東から通化の間は本春にこれは現場員並に軍警の血で出来た道路だと思ひます。車道嶺の遭難を申上げますと康徳四年の三月恰度驛河の水が解け始めて來た時で日曜日でした。私は家に居りまして、新聞を読んで居つたところへ電話がかゝつて今車道嶺で國道局のトラックが襲撃を食つてゐるから直ぐ來て呉れ寛甸桓仁線工事監督員の荒木技士の一に行らしいと云ふのです。午前十時頃であつたから早速取るものも取敢へず事務所

に行つたところ警備班長が一名居りましたので班長と二名でトラックで駈附けた。當時は道路が良くないし叢河の橋も出きて居ず到底間に合はなかつた。けれども、漸く現場に到着し死體を收容致しましたが實に慘憺たるものでトラックには蜂の巣の様に銃丸を蒙り七名の技術員も戦死者こそ出さなかつたが皆負傷してゐる有様です。

私共國道の建設に従事して居ります者の内技術員に對しては「匪賊の顔を見たら逃げろ」と云つて居る。警備員の方でも林部警備主任の御指導もあるが、兎に角戦闘が目的でない匪賊が來ればそれと戦つて、その間に工務員を收容しろと云ふ譯で攻勢的には出てゐなかつたのです然しやられる時はいつも地形の悪い所で日暮頃だと云ふ状況で多くは處置なしだつたのです、車道嶺の遭難地點は峠に近い片側は山片側は斷崖絶壁といふ匪賊の待伏には持つてこの所でありそれだけこちらも苦戦した次第でそこで五名の戦死者と數名の負傷者を出した様な譯で、甚だ氣の毒なことをしたので私共は更にその後の士氣と云ふ點には非常に心配したのです。その時の遭難者の一人である荒木技士を一時安全の所へやつて休養して貰ふつもりで南大嶺と云ふ叢河近くの詰所にやつたが、是又後に襲撃されて安全でなかつた、さういふ譯で荒木技士に代つて寛甸桓仁線を監督する者が却々出て來ないのであります。それぢや自分が行くより仕方がないと云ふ風に決心して居りました時に今の安東省に居ります。富山技士が俺が行かうと云ふ風に一役買つて呉れてほつとした次第です。そんな風な状況で今考へると馬鹿々々しいやうに思はれるのですが事務所員としては必死の

覺悟であの道路をやつたのであります。當時面白い話でありますが寛甸と桓仁の境に刊椽嶺と云ふ峠があります。此處に國道局員を狙つてゐる匪賊が居ります、その匪賊の前身がどう云ふ者かと云ふと、これは北村君が測量の事務に使つてゐた自警團長です。それがどうした譯か馬鹿に國道局員を付け狙ふのであります、終ひに討伐されたが彼處では随分苦勞した、北村さんが殴つたんぢやないか、(笑聲)それから山東苦力と云ふものは匪賊に對して案外強いものと思つたが彼處の峠で千人近い苦力を使つたが始終匪賊がやつて來る、足袋なんが盗る位なら苦力も何とか我慢して居つたが、自分等の生命を制するやうな主要な物を盗ると、匪賊の方が二、三十名の小部隊の時は却つて苦力にやられるのです。彼處は實は山東苦力の粒の揃つた協力の強い奴が居つた。

町田司長 車道嶺でやられた時は何人位ですか。

津田科長 こちらの警備員は日系四名露系が七八人居つて工務員は七名であります合計二十名位で三臺の自動車に分乘して居つた。朝早いと云ふと匪賊に會ふ機会が少ないので、朝七時頃寛甸を出發して八時半頃峠に差懸つた。匪賊は東側から來る先頭車に一番上で狙ひを附けた、左側が谷になつて、右側が崖になつてゐる、先頭車が頂上近くになつて五六米近くて來るのを待つて、その次の車は五十米位離れてゐる、その先頭車が兩側からやられた、ハツと見る間にやられた。一同は突嗟に谷底へ飛降りた、負傷者一名、戦死一名で急襲をうけた割に先頭車は被害が少なかつた後続車の連中は先頭車の者を收容するために下車して前に出たそれが爲非常

に苦しい立場になつて損害を受けた。

町田司長 匪賊はどうなつたのですか。

津田科長 匪賊はその時七、八十人位居つたのですがあの邊の土匪です。

町田司長 この間彼處を通つた時に、頂上に直木さんの書かれた碑が建つてゐます。その他の時々にも殉難の碑がありますが、今は警備など全く必要なく誠に今昔の感に堪へなかつたですね。

津田科長 日本軍の輸送部隊も相當やられて居ります、寛甸バスがやられるのは始終ですが運轉手は殺されないのです。

黒田廳長 坂田さんの道路司長の時に案内したことがありますね。

津田科長 あの頃はあんまり匪賊が少い時でもなかつたのですね。

坂田技監 桓仁に夜の十二時過に行つた。

黒田廳長 この前に藤原さんが來ての話ですが、今の中島部隊に代つて二、二六事件後彼處へ行つた。そうしたら中隊長がこの調子でゆくと私の部隊は約一ヶ月で一人も兵隊がゐなくなると(笑聲)

重住處長 私は大正十六年渾江を傳つて桓仁へ行つたが桓仁には匪賊が多かつた。不逞鮮人が根を張つてゐて可成り恐ろしい目に遭ひました。

津田科長 後で靉河橋が出来てから安東附近に匪賊は居なくなつたですね。

坂田技監 あの橋一つで非常に速ふ。

黒田廳長 左様です。非常に速ひますね。

津田科長 安東寛甸間に反つて匪賊が多い事がありましたこの地帯の治安確保にはもう少し早く橋を造らなければ可なかつたのですね。

町田司長 津田君は渾江でやられたのですね

津田科長 渾江撫松線の道路踏査に参り渾江の歸り道甫板石と云ふ郡南縣と渾江縣の境で遭遇戦をやつたのですが實戦といふものは愉快ですね、實戦と云ふものはこんなものかと後ろの方から見て居つた、渾江に行た時に新京の地區司令部大澤少佐が滿軍の騎兵を七十人位借してくれました國道局の警備とみんなで百人位居つた輕機が三挺位、日系も百人位居つたが午後一時からぶづつかつて、四時間位やつたのですが、敗けると云ふ氣持だけはしませんでした。

本間局長 村地中佐と靉河に行つたが奉天で一日日程が狂つて、日程通りやつて居つたらやられて居つた、吾々を襲撃する積りで居つたのかどうかは知らないが兎角予定の通り行つて居たらやられて居つた。丁度私共の行く前日の事ですが自動車は渡船で向ふ岸に近づいた時後方から狙つて來た、さうすると運轉手が第一にやられた尻をやられたが、勇敢に自動車を渡船の上から川の中に入れて岸へ自動車を乗り上げて兎に角通り着いたのは土木の詰所が川畔から二、三キロ奥にあつたが、そこへ駈着けそこで治療して貰つて死なないで済んだが乗つて居つた人が二人許りやられた。

黒田廳長 運轉手が足がなんかやられたのですね。當時僕等は省に居つたが、國道局員は日系の警備員を連れてたので羨しかつたが縣では滿人の警備員巡査しか連れてゆけなかつた。併しあれはどつちが安全だつたが今でも疑問です私は東邊道に行つてからは匪賊に一廻もやられてゐない、警備は滿系許りですが、所が奉天省に居つた時は日系を連れて奥山と二道溝子へ行つたが彼處でやられて居ります。

津田科長 満人を連れて行つた方が情報が早い。

北村技佐 向ふは輕機關銃を持つてゐるのにこつちは射つても彈丸が出ないもの許りだつたことがある。(笑聲)

本間局長 鬮河を見に行つた時に彼處へ辿り着いて、晝になつたから彼處の崖の所へ行つて崖ぶちで飯を食べて居つた、みんなで食事を始めたら銃聲が聽えるぢやないかさあやつて來たと云ふので、後ろへ逃げたつて川ですからどつちへ行つても全部曝されてゐて逃げ場所がない仕様がなしので飯を食べてから戦争をしようぢやないかと云ふ譯で(笑聲)銃聲が聽えるが彈丸が飛んで來るのか何處から狙つてゐるか、制らない。その程度のものですから一應飯を片付けてそれから威嚇射撃を機關銃でして河原に逃

げたが危ぶない場所です。向ふは高粱畑で人がゐるかどうかわらない所を射つのです、そんな所を射つなら見當を附けて、山のドテツ腹を射つたらどうかと私は云つたのですが、初めは無茶苦茶に畑の中へ射つたのですが、それぢや効果がない、兎に角崖ぶちに向つて機關銃を射つと向ふへ當ると煙が出るんですね。それだけでもいゝ譯です。

黒田廳長 本間さん一遍安東の古戰場を見にゐらつしやるといゝんですね。

本間局長 大樓房の邊りでは随分ひどかつた

黒田廳長 鬮河の所は見ないでせうね。

本間局長 飛行機で見ました。

町田司長 それではその次に東邊道の主であつた北村さんに御願ひします。

## 本會販賣圖書

# 寒中コンクリート工法

前陸軍技師 勝海恭次郎 著  
現交通部技佐

定價 ¥ 3.00

内 容 目 次

- |                 |                        |
|-----------------|------------------------|
| 1. 總論           | 8. ミキシング、プラントとコクスリート打設 |
| 2. 冬の調査         | 9. 保温設備                |
| 3. 氣象の調査と觀測     | 10. 寒中コンクリート工法の實例      |
| 4. セメントの水和熱と防寒劑 | 11. 電熱保温               |
| 5. 熱學的計算        | 12. 工費                 |
| 6. 計畫と準備工作      |                        |
| 7. 材料の加熱裝置      |                        |